

創

星

vol.11





CONTENTS

創星

2015 6月 vol.11



	*短歌十首 味噌と月光	竹中 優子	三
黒	詠人不知		五
	全日本手酌協会 マチコ・ダメージヘアー		七
	サブカル対談第十一回 竹中優子×一路真実		十一
	クラシック音楽・教養のお時間 天沼 太郎		十七
	間々えいよの勝手に感想文 間々えいよ		二十
	タモリ論 馬場 貴生		二十二
	僕のトランプには… 松田 定幸		二十五
	ビブリオ・バトルレポート 2015年 冬		三十
	文書庫ノ大魔神 一路 真実		三十三
	To' Job		四十一
	Philosophy of stardustbooks		四十三
編集後記			四十四



*短歌十首

味噌と月光

竹中 優子

ふたりして嘘をつき合う月夜ですひとえまぶたとまつげの距離で

他人のために自分を捨てることはない震える唇かすかに開く

月光は乱反射してCancanをひとり静かに見つめる祖母よ

仲直りのしるしに味噌を買ってくる男と暮らす冬の夜かな

階段を踏めばひとつは鍵盤に当たるあるいは水平線に

生活に埋もれていくと君は言う 銀杏並木の黄金の下

産休の予定書き込む冬の日の匂いかすかに残るページに

W 浅野ってあだ名のついた新人が働いている合同庁舎

見ぬふりが優しさだとは思えない 優しくしたい相手でもない

電話してきた訳ぐらい教えろよ 駅のホームに風は溜まって

黒

よみびとしらず
詠人不知

だが黒だった。高田馬場あたりでガタガタの鞆を放り投げたバカ面から。つらつら書き連ねたネタ帳と詐称疑惑に犯されながら、ながれながれた流れ者。

チャチャチャチャチャチャ。

閉幕 クロッキー

クッキーをポケットの中で叩きわって、ビスケットと思うなよ、バカタレ！と発狂した明け方の誰もいない交差点。茶店で忘れたライターを取りに帰る訳もなく、とめどなく、何処と無く、コード進行をシカトしては、しかと見届けてやった。桁数もわからぬ小切手を燃やしたかった。ただそれだけさ。

第二幕 ジャブっす

ピチピチチャブチャブ、ジャブっす。美人じゃなければ、じゃぶすっす。ブツブツ抜かしてもクズはクズ。なななんちゃって。

第三幕 生ゴミ 生米 何てしよね

オウノー、鼻の粘膜、構造改革、最たるリサイタル、タルタルソース、憎悪、ホロコースト、パイト、ちよちよぎれ、キレツキレ、冷暖房完備、マジっか？マジックショー、ユーノウ？

へいへいマジっすかの法則を習得したから我は無敵なり、なあ〜パイセン。

反省、懺悔、賛成、んでもって直火焙煎。

第四幕 まくしたての純情

フラッフラのフラフープに愛を込めて。丸月罰日。腫れ。ピツチリ横分け9…1と洒落こんで、たまには出かけてみるか。一步外に出れば俺も外国人。地球とケツはまだまだ青かった。さあ〜ミルク呑みとサシ呑みだ。

第五幕 7734

狂った犬に手を噛まれ、鎖が引きちぎられた後では遅いんだぜ。羊の着ぐるみを身にまとった狼、コードネーム「7734」

いつでもOK、夜露死苦デス。逆立ちしたら地獄、ならば通常は天国さ。エスカレーター、アイスクャンディー、しようがねえか、ケー

スタディー、キャリアとキャディー、きちんとパディー、ダーティーにストマックを流し込み、笑って闊歩、そんな阿呆、いいじゃない。いないないババア、無い物ねだりはやめてしまつて、ただただあるものをさ、大事に、今日も鬼退治に。へル、イエー。

閉幕 それでも世界は続いていくから

それでも世界は続いていくから、見たこともないものを見に行こう。お気に入りのスニーカー、泥だらけでさ、泣き笑い、繰返し、そして今ある景色。

巨大に広がる眩しさと世知辛さ、ペロリと舐めたなら、もう迷うことはない。くねくねとうねうねとマンホールを数えたけれども、アスファルトに鈍く光る一〇円玉を鷺掴み、ローリングストーン。そう、全てを黒く塗りつぶしちまえ。そう、焦げて全てが真っ黒になるまで。

(おわり)

てじゃく 全日本手酌協会

マチコ・タメージヘアー

皆様は
初めて酒を口にしたりした日のことを
覚えていらっしゃいますでしょうか

私はめっちゃ覚えています
十数年前、まだだいぶ若かった頃…



機会があれば私もこんな帽子をかぶってみたいですね

普通、最初はマズく感じると思いますね…

これを書いていくのも、酒酌会には慣れてしまっただけ…

先日、法事があり
実家に帰ったところ…
(祖母の二十五回忌)



爺さんたちビール八十代

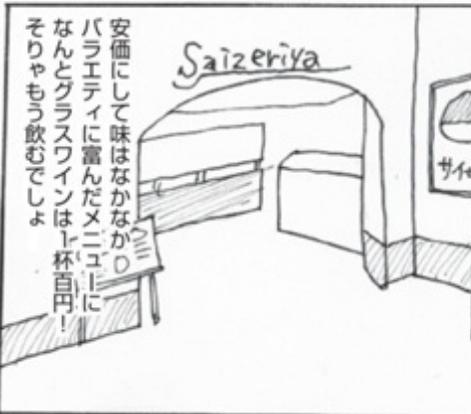
親戚の爺さん軍団が、坊さんを
ペロンペロンに酔いつぶしており
「やだこのDNA…」と思った…



その後
再婚して
キリ返した！

坊さん、酔いつぶれたらどうなるの？

「サイゼリヤ」がファミレスでは
なく、飲み屋であるというとは
皆さん周知の事実かと思えます



安価にして味はなかなか
バラエティに富んだメニューに
なんとグラスワインは一杯百円！
そりやもう飲むでしょ

お前が思ったよりもいい店行きたいですわ私
そんなサイゼリヤは一人飲みにも
大変オススメです。



小皿料理が充実していますし
イタリアンなんて女性でも
チャレンジしやすいかと。

ファミレスで一人で飲むのは
さすがに抵抗がある？



向かいオバサン…
このように一人でデカイジョッキを
あおるのはいささかハードルが
高いかと思えますが…

ハイ、これメーカーひいて
そこでおすすめのものが
このグラスビール！

サイゼリヤでグラスビールを注文すると
ドリンクバーのと同じグラスで
ビールが出てくるのです！



一人飲みは恥ずかしいワ★
とかおっしゃる貴女、どうです？
これだと大丈夫です！
一見シンジャールに見えなくも
ありません！
不安ならストローを添えてどうぞ！
(ストローでよりシンジャール感アップ！)

裏面イラストで飲むのはおもしろいかもしれません

私はだいたいこのグラスビール299円と
あと2品299円メニューをたのんで
大大満足♥



299円の例 (この中から2品たのむ)

デブだから沢山食べるよ♥

名づけて
ハクナ
897
セット



誰が吐くか！
今から飲み会行くんじや
最高ですよ♥
コストパフォーマンス

ハクナ
897セット
サイゼリヤ
と覚えろ!!

飲み会が実現するのだから、一回入れてから飲むのです

会社も大きく増え代わって来た人々も増えている

北九州市に引越したため
小倉へ博多を新幹線通勤して
いた

片道十六分
定期代はすごい高いが...



新幹線族は結構いるようで
朝は通勤客で込み合っただが

時間によっていま
空かたいてい

帰りは出張帰りの人や旅行者と
隣合うことも多く、空腹な中
こんな誘惑も...



いいなあ

出張帰りの人

はやくはやく

シャキーナくらいが素敵いい、音もしないし

そうや！
私も飲む



たったの十六分ですが、旅情高まり
めっちゃビール飲みたくなってしまっ
そんな新幹線...(クス)

酒飲んだの
バレんよう
マスクして帰宅

うわー
ノド痛いわー



なんかもつちや
ノド痛いわー

で、また飲む

焼きそば作ったよ

世の中には人を疑うことを知らない人もいます

そんな小倉の
とあるティーフスホットで



あらー
分かるわー

私も昔はそんなことが
あってねー今は娘が
.....



知らん人に話しかけられるのも
また一興だったりする

長年連れ添った
熟年夫婦的な人ら

お二人は結婚されて
何年位ですか？



で、話が
盛り上がった頃に
え、うちらっ？

うちららっはついさっき
2時間前に出会ったばかり
なんよ



出会い系で
アハハ...

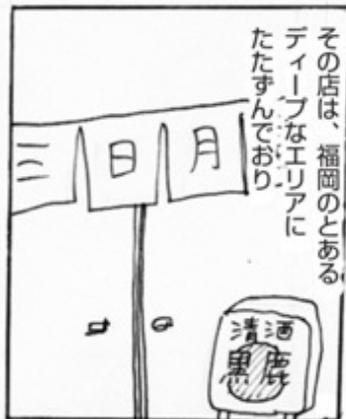


アハハ...
アハハ...
人生いろいろ
ですね...

「出会い系」とかい言葉自体まだまだ新しかった



店のメニューはホルモン煮
ただひとつしかない！
しかしそれが超絶品！
あああから行きたいわー、夕方5時オープンですわー



その店は、福岡のとある
ディープなエリアに
たたずんでおり



飲み屋のマスターは
ふしぎな人が多い(と思う)
とあみバー
実は私
マジックを
少々…
はあ…
見せたい
ですわー

こんな漫画も見ていないとは思いますが、いちおう店名や個人名はべつものに変えております



そんなことより
どろろー
実はナツキは私の
親戚なんです
果のようなもんです
てっぺん
すごい



マスターまさかの
アイドル好き？
福岡45の
なつきー！
大好きなん
ですか？
あー



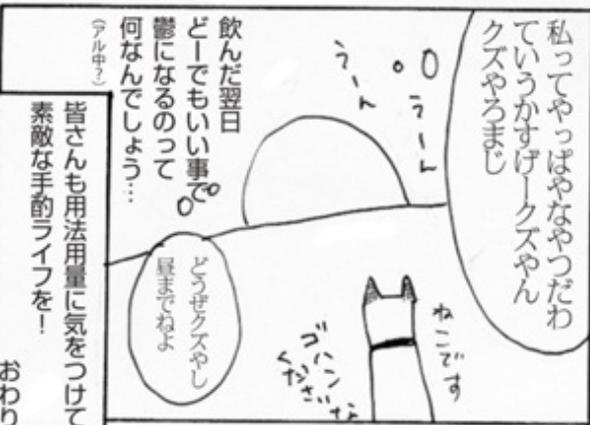
タレをホルモンにかけていく
おっちゃんの優しい手つきはまるで
赤ん坊を風呂に入れているかのよう
わ！



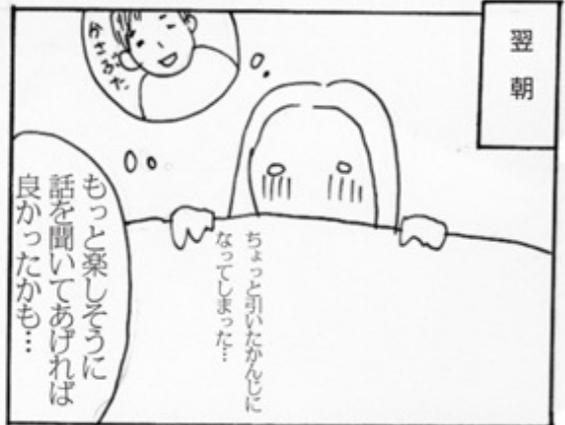
3枚目のシングルも
これまた名曲
なんですわ
この後、同ラジカセより
「かさぶたまん」出演のラジオを
録音したテープを聞かされる…



「かさぶたまん」ってしてます？
久留米発のアイドルなんですわがね
この子達が凄くいいんですわ
中学校の同級生グループで結成さ
れたバンド形式のアイドルでね
先日もライブに行っただんすがね
めちやくちや
ディープだった！
そんな
しらねえ…
くわ



飲んだ翌日
どーでもいい事
鬱になるのって
何なんでしょう…
どうせクスやし
屋までねよ
おわり



翌朝
もっと楽しく
話を聞いてあげれば
良かったかも…
ちょっと引いたかんじに
なっちゃった…

竹中 × 一路 サブカル対談

第11回



私たち二人が
映画・小説・漫画等について
好き勝手に語ります。

第11回目のテーマは、「テレビ」です。

好きなテレビ番組について

竹中：じゃあ、今回は普段見ているテレビについて語るといことで、よろしくお願
いします。

一路：よろしくお願ひします。

竹中：一路さんは、「あまちゃん」をよく見
てるそうだね。

一路：再放送だけど、2年越しで、やっと
見始めたよ。でも、今クールはまともに見
てるドラマが少ないけど。

竹中：「アルジャーノンに花束を」はみんな
好きだよ。何回もやってるもんね。監修
が野島伸司で、書いている人は違うから、
全盛期の野島伸司臭がすくて。

一路：すこいよね（笑）

竹中：古き良き時代の野島伸司を模倣して
いるというか。それが、逆に懐かしくてい
いのかなと思っています。他に何か好きな
ドラマはありますか。

一路：私は「植物男子ベランダ」が好き
すぎて。

竹中：私も一回だけ見たけど、結構想像以
上に植物押しだった。もうちょっと植物に

チャンネルは

回すものでした。

かこつけた恋愛物なのかと思ったけど。かなり本格的な植物押しだよ。

一路.. そう。私も最初は番組表で見て、趣味の園芸講座みたいな番組かと思って録画したんだよ。そしたらすごいドラマだった(笑)

竹中.. 途中アフリカの植物のことかあって。

一路.. そうそう。だいたい途中あいうえおが入って、ドラマが前半と後半に分かれてるって作りなんだよね。

竹中.. 何かあれを見て、結局NHKのドラマが一番自由なんじゃないかと思った。

一路.. だよ。NHKBSのドラマってすごいよ。

竹中.. プレミアムよるドラマ。

一路.. 本当自由だなんて思うよ。次あるドラマも、「ランチのアップリちゃん」とか言って、会社で上司からお昼になるとお弁当の交換を毎日求められるっていうドラマだったり(笑)

竹中.. 何だろうね。視聴率が関係ないってところがポイントなのかな。フジテレビの視聴率がひどいらしくて、全体の35%ぐらいを改編するんだって。社長が未曾有の

危機だってコメント出すくらい。一番やばいのはドラマなんだって。今までドラマが成績よかったから、バラエティで冒険できてたけど、そこがガタ落ちだよ。

一路.. ああ、なるほど。

竹中.. でも、社長は自由な発想でチャレンジしてほしいって言って。でも、普通の仕事もそうかもしれないけど、成績を必ずとれって言うのと自由な発想ってものを両立させるのは、口で言うほど簡単じゃない。

一路.. だいたい冒険しすぎると成績あがらないよね。結局、視聴率って機械がついてる家庭で計られてるんでしょ。

竹中.. でも、機械が家についてる人とか会ったことないよね。

一路.. 言っちゃいけないでしょ。

竹中.. でもそれぞれすごいみんな守ってるよね。これだけSNSが発達してるのに。2ちゃんねるで「ついてるんだけど、何か」とか、匿名であってもいいのにな。

一路.. 何かで読んだときに、ちゃんと説明を受けてからつけるって書いていたけど、私が調べたところによると。

竹中.. 調べたんだ(笑)

一路.. 視聴率のことが気になってさ。とい

うのも、「ゴーイングマイホーム」が好きだったのに視聴率低迷で打ち切られそうになって、何でだろうと思って調べたんだ。で、私の結論は、あのドラマを見てる世代は働いてるから、録画してるんじゃないかと。

視聴率の統計には含まれないから、録画も入れたところで計るべきだと思って。竹中.. 何か視聴率ってあまりにも不完全感あるよね。その割にすごい影響力があるじゃん。ヤフーニュースとかにいちいち出て、一話目とかから出したら妨害だと思ってるんだよね。

視聴率って作り手側の事情なのに、視聴者側が必要のないところまで面白がってる。一発屋芸人と近いものを感じる。結果的に一発屋になるんでじゃなくて、いつの間にか、今年の一発屋は誰かを先に決めて、その人が消えるまでを視聴者が楽しむみたいになっている。

一路.. でもやっぱり、視聴率の有効性が新聞でも問題になっていて、今いろいろ発達してスマホでもタブレットでも見られるから、テレビだけの視聴率じゃ計れなくなってきたって書いていたけど。そうしないと、あれだけ騒いでいるわりに踊らされてる感じがするよね。

竹中…視聴率って良ければ追い風のな効果があると思うけど、悪いからやめようとはならないよね。自分が面白いと思ったら、そのまま見ると思うし。

一路…私が見ているのは誰も見てないってのが結構あって、勤めているんだけど誰も見てくれないっていう時があるよ(笑)

竹中…それがテレビの多様性だと思うけどね。あんまり視聴率主義に偏ると、その多様性がどんどん無くなって。クイズ番組が流行るとどの局もクイズ番組ばかりやって、今は外国に行くみたいなの番組が多いし。それだったらすみ分けた方が良さ。

一路…同じ時間帯に似たような番組する意味ないよね。

テレビにまつわる幸福な体験

竹中…小学生の頃とかテレビっ子で、来週が待ち遠しいって思っていたけど、そういう感覚は久しく味わってないよ。来週が待ち遠しい、苦しいみたいなの。

一路…ないねえ。

竹中…ああいうのがテレビっ子ってことだと思う。何かワンクール持たないんだよね、

興味関心が。ファーストクラスは面白かったけど、最終回も結局見てないし。ああいう感覚をもう一回味わいたいね。

一路…何だろうね。それ。

竹中…小学校2年生ぐらいの時、りぼんが好きで一カ月苦しかったもんね。

一路…一カ月の間に何回も読みなおしたりするしね。

竹中…来月どうなるんだろうって、どうでもいいことよ。男の子と女の子がすれ違って、ライバルとかがでてきて。うまくいくって分かっているからね(笑)なぜそんなことで一カ月苦しいのかと。もし自分が作り手だったら、そういう気持ちを味あわせたい。

職場でテレビの話とかする？ たぶん昨日のあれ見た？」みたいな話をするところまでが、ラブジエネレーションの時代のドラマの醍醐味だったと思うのよ。

一路…うーん、ドラマの話ってしないね。お笑いの話とかはしてるけど。アメトークでさくみたいなの。まあドラマのことも言わないこともないけど、学校みたいに次の日

あれ見た？」みたいな感じではないね。

竹中…次の日言うってことないよね(笑)

でも、それを含めて幸福なテレビ体験っていうかさ。

一路…でもどうなんだろう。小学生とかいまだ言ってるんじゃないのかな。

竹中…それは何に対して言ってるんだろうね。『うーこそ、わが家へ』とかなのかな。そうだとしたらテレビはまだいけるよね。

愛すべき懐古主義、そして消えない女優たち

そして消えない女優たち

一路…この前職場の飲み会で、テレビ何見てるって話になって、四十代半ばの人が深夜のアニメって言ったんだよね。犬人のヤッターマン」っていうのがやってたらしくて、よく知らないんだけど、タイムボカンシリーズとかをちょこちょこオマージュして作ってたんだって。だから昔見た世代にうけてるってこと言ってたんだよね。そこから派生して、アナと雪の女王」が流行った時に、歌が「Let's go」だったから、「Let's go」と何が違うんだと調べたらいいんだよね。GOだと自分からありのままに生きる。ずるってことだけど、BEだと神のなすがままに、ありのままに生きるってこと

で、意味が全然違うって言って。自分はやっぱりビートルズだと思って「Get it? Be it?」ばかり聞いたって言ってた笑だからさ、四十代はもう昔のものをオマージュっていうか、繰り返し受け入れてるっていうか。だから、さっきの話の野島伸司もそうで、いつしか人はそうなっていくのかなと。

竹中 分かるわかる。自分が一番良かったあの時期のものだけで。

一路 それを繰り返し繰り返しやっていくののかなと思っただよ。まあ有名になっただけなら、恋するフォーチュンクッキーとか多少はかじるけど、最新のオリコンランキングを全部聞くとかかないもんね。別に自分の十年ぐらいの幅で、好きな歌を歌えばいい。そう思えば、革新的なことをする必要はないよね。

一路 ちょっと昔のものを取り入れた形で。竹中 六十代向け、五十代向け、四十代向け、みたいに。10チャンネルが四十代向けなら、8チャンネルは三十代向けとか。ザッピングしていけばずっと三十代向けが見れるみたい。でも寂しいよね。ゼロ年代みたいなのがないんだもんね。今の小学生と

かが。悲しいね笑）ちょっと複雑だね。常に最新のものがなくていいって気持ちと、それだと新しいものが生まれなくなっちゃうから。

一路 過去を繰り返すのもいいけど、やっぱり新しいものを仕掛けていける人間ではありたいなと思うよね。

竹中 受容もね。自分も新しいものを取り入れたら。作る側としても。

一路 職場の人も、だんだん物事に興味がなくなるって言ってたけど。

竹中 でもそれは分かります笑）二十五年ぐらいの頃は分からなかったけど。特に十代の時とか自分が世界の中心みたいな。自分が好きなものが世の中で流行ってるわけじゃん。テレビとかで。でも、今私が好きなものとか全然テレビで流れてないけど。率としては一緒だったんだろうね。十代の時は百と思っただけど、二十代、三十代、

の人が好きだったものもあったわけで。それが錯覚だったんだね。物を知らないがゆえの。それが今相対化されてきてるから。例えば、八十年代の中森明菜とかが好きな人が。マツコデラックスとかさ。あの時良かったわとか言うけど、本当にクオリティ

が高かったのか。懐古趣味なのか。

一路 難しいね。

竹中 基本は模倣からっていうか、どんなに新しいと思っただのも、過去に前例があるわけ。本当に0から1を作るってことはないから、この世の中。そんなきれいに何年代が一番良かったとか比べられないと思うけど。自分が一番そのことにハマってたときの記憶が強いんだね。だから今の十代の人たちは、今やってるドラマが強いから、その話してるんだろうね。でもね、すごいよ。29歳の「クリスマス」とか見ると、価値観めっちゃ変わってるよ。

一路 あはは笑）

竹中 あの頃の29歳ってもう本当におばちゃん扱いだからね。一生独身を貫くって決める人と、シングルマザーでやっていくって決める人が、29だから。

一路 すこいよね。

竹中 今の木曜にやってる齋藤工のドラマも、石田ゆり子は三十代後半とかで恋愛やってるわけで。十歳ぐらい差がある。

一路 だけど、山口智子が今のクールで恋愛のドラマやっていると見たらすこいよね。竹中 29歳のときはあんなのやって、今

もやってるっていう。小泉今日子とかもね。

一路..すこいよね 笑)

竹中..女優ってすこい。それを思うと、新しい人がいかに食い込むかも難しいよね。十年前から席を譲ってないわけじゃん。もちろん途中出てない時期とかもあるけど。人によってはずっと主演で、主演できる女優みたいなのは十人ぐらいしかいないわけなのに。そこに武井咲とかが喰い込んでいくって。結局、人気ある人で集めるから、何か見たことある人たちが同じようなドラマばかりやってる。ちょっとずつ組み合わせが違っただけで、すこい狭き門だね。ましてや主演するなんて、本当に大変なことなんだね。

やっぱりおもしろいドラマが見たい

一路..最近、何とかのドラマを作った人のタグとかコンビとかよくあるじゃん。最初は、あのドラマ好きだったから見ようと思っただけで、それが多いからさあ。違う人と組んだ方が面白いと思うんだけど。竹中..原作主義とかと重なるけど、大きくこけることができないから、一回成功した

らずっとやるよね。半沢とか。

一路..半沢直樹のところはほんとあのチームがずっとやってきているよね。最高の離婚」とか、最後から二番目の恋」とかもさ。

竹中..心がポキッとね」のタイトル見るだけで、ポキッとなるよ。不思議なタイトルだね。ポキッとまではいいけど、最後のね」が何か異様な感じと言うか、怖いんだよね。

一路..私があと気になるのは、演劇っぽい演出が多くなっているのかなと。登場人物のすこい長台詞とか、間が演劇っぽくて、カメラ長回し、ワンカットで撮るとか。ドラマがだんだん演劇に近づいてるような気がする。

竹中..「デート」とかね。

一路..変わってたね。歌ったり踊ったり。竹中..何が普通かっていうのは難しいんだけど、最近は設定が複雑なドラマが増えてくるよね。デート」もだけど、不倫物とか、今日、会社休みます」とか。オフィショがないと成立しないというか、あそこまでいくと、もはやちょっとしたポルノみたいな。

一路..設定がね。

竹中..ただの個人的な体験に基づく見解だけど、私が普通って思うのは、「ロンバケ」

ラブジェネレーション」みたいなザ・トレンディードラマって感じ。普通の〇しとサラリーマンが喧嘩とかしてる間に付き合っちゃうみたいなの。普通のを楽しむっていうのができなくなって、そういう演劇みたいな演出とか変わったものを求めているのかな。

一路..そうだね。でもどうなんだろう。それで普通のドラマやってもうけないのかもじゃないけど。

竹中..「ロンバケ」はまだ瀬名がピアニストだからあれだけど、「ラブジェネ」とかほんと普通よ。エクセルのやり方教えてあげる」すげえな」みたいな 笑) キティちゃんのお弁当箱で、今のドラマだとすこいおしやれなオフィスだけど、すこく普通の灰色の机だからね 笑)

一路..時代だねえ。

竹中..告白の仕方が電光掲示板で、理子好きだみたいな 笑) 当時のマックスお洒落なわけよ。理子は趣味がマジックで、キティちゃんグッズを集めててね。自分が卒論で少女漫画を考察したときに、高度成長期

第9回 チョン・キョンファ演奏会—私宛の名演奏

演奏会が終わりホールの明かりがついたとき、昨日の問いがよみがえった。私は答える。そう、これは私のための音楽だと。

今回取り上げる音楽会

2015年4月25日(土) 相模原市民会館

演奏曲目: フォーレ*1: ヴァイオリン・ソナタ*2 第1番 イ長調 Op.13
グリーグ*3: ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ハ短調 Op.45
ウェーベルン*4: 4つの小品 Op.7
ベートーヴェン*5: ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op.47「クロイツェル」

2015年4月26日(日) サントリーホール*6

演奏曲目: ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第5番 ヘ長調 op.24 「春」*7
ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 op.30-2
ヴァイオリン・ソナタ第9番 イ長調 op.47 「クロイツェル」
ウェーベルン: 4つの小品 op.7

※演奏は、ともに、ヴァイオリン: チョン・キョンファ、ピアノ: ケヴィン・ケナー

2011年、ヴァイオリンの女王*8、チョン・キョンファ*9が約6年の半引退生活から復帰した。復帰後最初の来日公演(2013年)では、かつての炎のような熱気はそのまま、しかし、どこか寂寥感漂うという最高級の音楽を披露した。

そのチョン・キョンファが再び来日公演をする。幸運なことに、今回土曜日曜と連続して公演に行ける*10。そんなチャンスは滅多にない。今年一年の運をもう使い果たしたことを心配しつつ、私は出かけた。

4月25日(土)は相模原市の市民会館での公演。こう書くのも申し訳ないけれど、海外の一流音楽家がやって来るようなホールとは思えない田舎*11のホールである。本当にチョン・キョンファは来てくれるのだろうか?あまりの幸運を信じられなかったのは、主催者側も同じだったらしい。「本当に相模原市に来るのか?」とスポーツ新聞ばりの広告まで作ってあって、ホールに並べられていた。市民会館のリニューアル記念に凄い人と呼ばうとダメ元で声をかけたら、あっさりOKが出たのかもしれない。そのポスターはPDFも作られていて、ネットで閲覧できる。主催者の喜びようが伝わってくるので、ぜひご覧下さい(<http://sagamiharashimin-k.jp/event/170.html>)。

喜び勇んで出かけたけれど、演奏は今ひとつ。グリーグのヴァイオリン・ソナタ2楽章が格別きれいだったことと、アンコール*12のエルガー*13「愛の挨拶」がよかったことを除けば、どうにも退屈な公演だった。特に主役のヴァイオリンの音がピアノの音にかき消されがち。ピアニストの上手さは伝わってきたけれど、何か大事なことが伝わって来ないもどかしい演奏。まるでエア・ギターならぬエア・ヴァイオリン状態。「この音楽は一体誰に向けて演奏されているのだろうか?」。途中で浮かんできたそんな思いが頭の中をぐるぐる回り続けた*14。ただし、これは演奏家の問題ではなく、ホールの音響*によるものかもしれない。あるいは、私の席が悪かった*のかもしれない。なぜなら、次の日のサントリーホールの演奏は、印象が全く違ったからである。

ちなみに、よかったという「愛の挨拶」は別次元の演奏。甘いメロディが繰り返し現れるだけの曲だけど、冒頭のメロディが、繰り返されるたびだんだん小さい音になっている。小さくなっていくのに音の緊張感は強く

なってくる*15。そのメロディが胸にぐっと来た。強烈だった。けれど、それまでの演奏に不満があったので、「分かりやすい曲だからいい音楽に聞こえたのかな？」ぐらいの気持ちになった。その日は。

そしてその翌日 26 日。今度はサントリーホール大ホールでの演奏会。ヴァイオリンの音をはっきり聞こえてきて、何もかも違う。なんて雄弁な音楽なのだろう！と素直に喜べる。鳴っている音を言葉にはできない。言葉にはならないけど、その表現しようとする(に思える)ことがずると体に染み入ってくる。「春」も「クロイツェル」もない。ときめくような歌声が私の心を浮き立たせ、時として谷底に落とし込み、そして幸福のうちに曲が終わる。あの厳つい顔をしたベートーヴェン*16 が、魅力的な音楽を書いていたことに驚き、聴き入るばかり。

ステージを見れば、そこにいるのは失礼ながら近所にいそうなパーマのおばさんである。そのおばさんが、音楽であって、しかし、音楽を遙かに超えた音楽を紡いでいる。何かの CD の解説に、彼女のことをまるでシャーマンと書いたものがあつた。今ならそれがよく分かる。

そうそう、前日は、ピアノの音に隠れがちなヴァイオリンの音に集中しようと、ずっと目を閉じて演奏を聴いていた*17。ところが、この日は何度目を閉じてもすぐに目を開いてしまう。ステージに目が行ってしまう。次の音を聞きたいと、思わず目でステージを追ってしまう。

演奏中のチョン・キョンファはよく、ヴァイオリンを弾きながら「決め」みたいなポーズを取る。歌舞伎などにあるあのポーズである。東洋人は一般にその手のポーズを取ることが好きなかもしれない。私は彼女のそのポーズをあまり好きではない。ところが、その日その時の演奏会では全く気にならなかった。音楽が視覚を完全に越えているのだ。

アンコールはバッハの小品に、前半にあつたベートーヴェンの一部。最初から最後まで完全に没入してしまつた今回の演奏会は、最後にまたエルガー「愛の挨拶」。これがとどめの一撃。昨日と同じく圧倒的な演奏。音楽は自明で、直接私に語りかけてくる。あまりに優しく美しく、そして悲しい感覚が音となって私を揺さぶる。こういうことを何といえよののだろうか？ 宗教的な恍惚といえよののだろうか？

この世界には素晴らしい音楽が存在する。ごくわずかな音楽家だけがそんな音楽を演奏できる。今回、私は幸運にもそれを体験することができた。この幸運を喜び、人に伝えたいと思う。

おまけ

チョン・キョンファ独奏 エルガー「愛の挨拶」
<https://www.youtube.com/watch?v=bisdQUm9N2E>

*1: ガブリエル・フォーレ(1845-1924)はフランスの作曲家。多くの名曲を作っていて、特にレクイエムは有名。ミッシェル・コルボ&ベルン響の演奏は美しい。

*2: **ヴァイオリン・ソナタ**: ヴァイオリンとピアノの二つで奏される曲。昔は低音の出せないヴァイオリンをピアノ(チェンバロ)が補佐するものだったが、時代が下り楽器の性能が上がるにつれ、たった二つの楽器から多彩な音楽が演奏されるようになった。フランクのヴァイオリン・ソナタは晴れやかで聴く価値がある。

*3: エドヴァルド・グリーグ(1843-1907): ノルウェイの作曲家。組曲「ペール・ギント」(小学6年生で鑑賞した方も多はず)、ピアノ協奏曲が有名。その他、組曲「ホルベアの時代から」(ホルベルグ組曲)が楽しい。

*4: アントン・ウェーベルン(1883-1945): オーストリアの作曲家。いわゆる現代音楽(細かくいうと新ウィーン学派)の代表的な作曲家。現代音楽がいかにとんでもない音楽か、作品番号1の「パッサカリア ニ短調」を YouTube など聴いてみよう！

*5: ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827): 言わずと知れたクラシック音楽の大作曲家。ドイ

ツ生まれ。初期の澁刺とした作風、中期の逞しい作風を経て、晩年には静けさと深い思索に満ちた作品(弦楽四重奏、ピアノ・ソナタ 30～32 番)を作った。

*6: **サントリーホール**: 1986 年に開館した音楽ホール。おそらく日本でもっともハイソな音楽ホール。日本初のヴァンヤード(ブドウ畑)型ホールは、ベルリン・フィルと同じ思想で作られている。ベルリン・フィルの音楽監督カラヤンの薦めだったという。

*7: **「春」**: のだめカンタービレ第 1 巻後半のエピソードが面白い。この巻に限らず、クラシックに興味のある方は必読!

*8: **ヴァイオンの女王**: 現在ならアンネ・ゾフィー・ムターや今回のチョン・キョンファがそう呼ばれる。男性だと名音楽家はマエストロ(巨匠)と呼ばれる。女性だったらマエストラになるそうだけど、それは聞いたことがない。

*9: **チョン・キョンファ(1948-)**: 韓国のヴァイオリニスト。弟は指揮者・ピアニストのチョン・ミョンフン(1953-)。現代最高のヴァイオリニスト。彼女の母親を中心とした一家について書かれた「世界がおまえたちの舞台だーチョン・ファミリー物語」が面白いという話なので、現在注文中。

*10: 演奏会に連続して出かけるようになれば完全な中毒症である。しかし、もし可能なら、同じ演奏家、同じプログラムであっても複数回出かけるべき。それは、今回の例のように、貴重な体験に出会う可能性がある(可能性を上げる)ためである。

*11: **田舎**: 「田舎」などと書きつつ、しばらく住んでいた相模原市は住み心地のいい街だった。

*12: **アンコール**: 演奏会で、演奏者が披露してくれるプログラム外の曲。サービス残業の好きな(?)日本人は行うのが当たり前になっているけど、海外だと(外国からの団体を除いて)ほとんどない。

*13: **エドワード・エルガー(1857-1934)**: イギリス(イングランド)の作曲家。行進曲「威風堂々」第一番、「愛の挨拶」が有名。

*14: **「この音楽は一体誰に向けて演奏されているのだろうか？」**: 自分の耳のせいかもしれないのに、いつもながら不遜なものである。外野はとかく勝手なことを言う。

*15: **強くなってくる**: 名指揮者フルトヴェングラー(1886-1954)が指揮する演奏では弱音は、単に弱い音ではなく、それどころか強い緊張感を持っていたという。音響のことはよく分からないけれど、そういう音だから音響に問題ありそうな相模原市民会館でも、その強烈な音楽が伝わってきたのかもしれない。

*16: **厳つい顔をしたベートーヴェン**: 笑ったベートーヴェンの絵を見たことがない(パロディではあるけど)。音楽の教科書では、あの天才モーツァルトより、それほど才能に恵まれなかったベートーヴェン(といっても大変な作曲家である)の方が扱いが重い。きっと、子どもに(厳つい顔→「努力すれば成功する」)的思考を植え付けるための教育的配慮だろう。けれど、笑ったり楽しんだりしているベートーヴェン作品(今回の春など)もいっぱいある。このイメージが、ベートーヴェンの、ひいてはクラシック音楽の間口を狭くしている。

*17: **ずっと目を閉じて演奏を聴いていた**: これはけっこう眠くなるのでお勧めしない。私の場合、演奏に集中できないとき目を閉じていることが多い。

よいえいよの勝手に感想文

森崎書店の人々
八木沢里志

普

通そげんか事おきらんやろう！と言いたくなる主人公、貴子さんの状況もこの本の場合は、現にあるんじゃないかと思わされる。どこか優しさ漂う場面場面の雰囲気そうさせたのか、なんと言うか、とにかく文章が読みやすいのだ。

おじさんの奥さん、桃子さんがある意味、スパイス効かせてますけど、そんな人と一緒にあったおじさんも、ずいぶん変わり者。貴子さんをく

いぐいひつぱっていく。

また、舞台が古本屋なのせいか、カビくささや、静けさなんかも感じる。それがどこか彼女の人生を表しているよう。まあしかし思ったのは、やはり人と会わないと、つながらないと、事はすんとも動かないんだなということ。充電している貴子さんが動き出したとき、自分の心もわあっと爽やかになったもんな。

もし古本の聖地、神保町に行ったら、喫茶店でこの本を読みながらコーヒーを飲みたい。そんな雰囲気の一冊だ。



間々えいよ
の勝手に
感想文

映画
きつとじまへん

ポ

リウッド映画を初めて
見た。いきなり大勢の

人が出てきて、歌う。そのこ
とがどうかしら？と思ってい
たけど、すんなりと見れまし
た。ええ、はつきりと申し上
げましょう。わたし、大好き
ですこの映画！

インドも学歴社会だが、良
い学校に行ったら行ったで、
家族からのプレッシャーも大
きいもんだ。みんな今より良
い暮らしをしたいのだよ。
でもそんなことお構いなし

のランチョーにより、ファル
ハーンとラージュの人生がめ
ちゃくちゃ（良い方？悪い方
？）に変わっていく。

しかし、このランチョーが
失踪する。なぜ？インドの社
会問題などにも触れられてお
り、彼の失踪がうまく関係し
てくる。

正直、その理由を知ったと
きは驚いた。日本では大事件
だから。これは報道番組「ス
ツキリ」の阿部リポーターが
来るくらいの事件ですよ。奥
さん。でも、それでも人生う
まくいくんですよ。奥さん。

憶びょう者。
親に言いたいことか
言えたい。



ファルハーン

大学生役だけど
実は演じた時は
44歳!!



ランチョー

喋ると口の端
がものあごくニュー〜。と
よに上ヤッる。



ラージュ

何が悲しいって、僕に内緒で前号の「創星」で、僕の知らないところでタモリについて対談していたことである。

言っておくが、僕は自他ともに認めるタモリファンである。

タモリ倶楽部、プラタモリ、ヨルタモリは毎週録画して欠かさず見ている。

なので、今回はひとりで思いつきりタモリについて語ってやろうと思ったのだ。

昨年、「笑っていいとも」が終わった。

長寿番組の終焉は悲しい。

しかし、ここ数年、僕は「いいとも」を観ていなかった。

仕事で外にいるし、「いいとも」は観れないのが日常の常識になっていたのだが、それでも「いいとも」が終わったことは悲しいという

か、さびしかった。

しかし、観ていなかったのに「さびしい」というのは、何とも勝手な話である。

考えるに、僕にとって「いいとも」は毎日正午に僕の観ていないところで放送されていれば、それでよかったのだ。

「いいとも」の存在意義は、「変わらない日常」を具現化したものであった。

「いいとも」がある間、僕は「今日もいいとちがあっている」と安心できたのだ。

しかし、物事には終焉が来るのである。残酷な現実である。

親もいつまでも生きてくれないし、愛した人ともいつか別れが来る。

そう言った現実からしばし目を離すために、長寿番組が存在するのだとしたら、それは少々危険な気がする。

「いいとも」が終わることを、いつしか僕は試験のように感じていた。

その現実を直視し、対峙する時間を、放送終

了がアナウンスされてから、実際に最終回を迎えるまで育んだのだ。

思えば、鶴瓶が「いいとも終わるんやて？」とエンディングで行ったときから、猶予期間が始まり、それから視聴者は「いいとも」とお別れする時間をしっかりと歩んでいかなければならなかったのだ。

すべての人がそうできたかどうか知らないが、僕はすでに「いいとも」があつたことが懐かしくなってしまった。

昔住んでいたアパートを訪れて、更地になっていたような感覚を、平日の正午の感じるときがある。

僕はうまくお別れできなかったのかもしれない。

しかし、今も「いいとも」があつていたとして、やはり僕は観ないだろうと思う。

いつもあつていながら、特に急いでみる必要はないと考えるだろうから。

しかし！ やはり！ 常にあるからこそ、足

は伝えなければならないのだ。

「本当は愛していた」なんて、失ってから言っても、遅すぎる。

「いいとも」が終わり、しばらくして同じくフジテレビ系で「ヨルタモリ」が始まった。こちらは深夜枠ということで、古いファンからの期待が集まった。

しかしながら、「いいとも」で健全なお昼のイメージがついたファンからは少々なじみ深い企画だったかもしれないと、僕は思っている。すでに始まって数か月が経過したが、安定して面白いと思っている。

番組は、宮沢りえが経営するバーに、常連に扮したタモリが訪れるという体で進む。

タモリは必ずしも同じ人物ではないが、最近「吉原」というキャラで統一しているようである。ここでタモリのにとつての「ウソ」について、話しておきたい。

ぼくは「ヨルタモリ」が始まる当初、タモリ

が常連に扮するという点で、何かなじみにくい気がしていた。

どうせ新番組ならば、素のタモリが観たいと思っていたが、いざ番組が始まってみると、どんなキャラを演じていようが、タモリはタモリであった。フィクションの中のタモリはつまらないのではないかとこの危惧があったが、タモリはどうあってもタモリであった。

タモリはウソを楽しんでいる。というか、ウソの世界と、現実の世界のボーダーが、あいまいなのではないかと感じるのである。

もちろん、タモリの中でウソと現実の境ははっきりしているであろうが、それはぼくらの基準とは違うのではないかと、時折思うのである。

タモリは造詣が深い。何でも知っていて、何でもできるイメージがある。

しかし、タモリの研究本などを読んでみると、タモリは常に「なりきり」で世を渡ってきたことがわかる。

なりきりで芸能界に入り、短期間でお笑いコメンテスタの審査員をして「いいとも」の司会を得た。

人と話すときも、何か知識を披露された時に「そう！」と相槌を打つと、「知識があるように見える」とテレビで話しているのを観たことがある。

タモリにとつてはウソはブランディングの手法なのである。戦略的ウソというか、タモリはウソの中で生きてきたと言っても過言ではない。

僕的にタモリのいうことがウソであろうが、本当であろうが、大きな問題ではない。

タモリのいうことが素敵だし、ウソだとしても「さすがタモリだね」で済んでしまう。むしろウソと悪と断じてしまう価値観にこそ

疑問を持つ。

ウソは罪に違いない。

人間にとって、大きな罪のひとつである。

しかし、それを許容して、受け入れる寛大さ
があつていいのではないか。罪を飲み込みつ
つ、大きな結果を出す豪快さがあつてもいい
のではないかと常に思っているのである。

そんなタモリにとって「タモリ倶楽部」は特
別な場所であろうと思う。

「タモリ倶楽部」と「プラタモリ」は趣味的
な部分で共通点が多い。

しかしながら民放とNHKという差がある。

「プラタモリ」は面白い反面、タモリは知識
人としてのキャラを強要されているような窮
屈さを時折感じるのである。

タモリが地図や地形に関して話しているとき
の姿は楽しい。

しかしより楽しいのは民放の「タモリ倶楽部」
であると個人的に思う。

鉄道、地形など、タモリの趣味に合致した企
画の時のタモリ倶楽部はより楽しい。

番組もそのことを分かっているのか、それら
の趣味の時は ∞ 周に渡る企画にしたりする。

「タモリ倶楽部」でタモリが印象的なことを
行ったことがある。

鉄道企画で、専門用語を交えながら、タモリ

をはじめとした出演者が鉄道について熱いト
ークをし始めたとき、進行役のタレントが「専
門用語が分からない人もいるんで、解説して
もらっていいですか」といったのである。

しかし、タモリはそれを拒否した。

曰く、「タモリ倶楽部」はそういう番組ではな
いのである。

最近のテレビは親切すぎるのだとそういうこ
とを言っていたが、結局タモリは自由なので
ある。

視聴者は二の次で、自分が楽しみたいのがタ
モリなのである。

それはタモリ本人が「自分が楽しまなければ、
番組が面白くならない」と知っているのだと
いうことではないか。

それはタモリ自身が知っているタモリ本人の
価値である。

僕も、自分にそういう価値を与えてあげたい
と常日頃から考えている。

タモリは唯一無二である。

しかし、もう若くはなく、タモリが死んだら
という想像をよくする。

その時タレント的にタモリを引き継げるタレ
ントはいないだろうが、個人がタモリの哲学
を引き継ぐことはできるだろう。

タモリに憧れる人も少数派ではないはずだ。

「あの人タモリだね」なんて良い褒め言葉
になるのではないか。

僕はタモリ的になりたい。

タモリになれば、僕の人生は成功なのであ
る。

僕のトランプには……

松田 定幸

僕のトランプには、ハートのカードが無い

何故なら、スペードのカードばかり欲しがるところからだ

僕のトランプには、ハートのカードが無い

何故なら、クラブのカードを手に入れるのに精一杯だからだ

僕のトランプには、ハートのカードが無い

何故なら、ダイヤのカードが手に入れば満足だからだ

僕のトランプには、ハートのカードが無い

だけど、どこかにジョーカーが潜んでいると 思っている



— D r a c o —

ビブリオ・バトル

レポート

—2015年 冬—

星屑書房の新しい活動として、最近巷で話題のビブリオ・バトルなるイベントを開催しました。

(ビブリオ・バトルとは・・・参加者が好きな本をプレゼンして、お互いに一番読みたくなった本に得点を入れる。得点を一番集めた人が勝ちというゲーム)

報告者 竹中優子
紹介した本「石川くん」



この本は現代の歌人である柗野浩一が石川啄木を紹介した本で、本の構成としては、石川啄木の短歌、それを柗野浩一が現代語に意識した短歌、啄木のエピソードを紹介したエッセイがセットになって全26回の連載形式となっています。

さっそく一首紹介します。「たわむれに母を背負いてそのあまり軽きに泣きて三歩歩まず」という啄木の短歌を柗野浩一が「冗談でママをおんぶしあまりにも軽くてショック 三歩でやめた」と意識しています。

例えばこんな風に母をママとしたり、ショックとか三歩でやめたというようなわざと「チャライ」言い回しを使うことで、生活苦の中で家族を思い生きる清貧な青年像をいじわるなふざけた男性像にイメージを変える効果があると思います。

啄木は子供っぽくて自己愛が強い短歌を多く残しているので、柗野浩一はそういう部分にこそ魅力があると思っていて、あえてこういう風に意識していると思います。

こんな感じで短歌は、ちょっとした語彙のニュアンスの違いや、てにをはや語順など小さなことで大きくイメージが変わったり意味が変わっていきます。そこが短歌のおもしろいところだと私は思っていて、31文字の中では大きなことを言うというのは難しい分、言語のミクロの世界を追求するというか細部を極限まで追及するというおもしろさが短歌にはあると思います。

この本は構成上、そのことがとてもよく分かる本なので、ぜひみなさんにお勧めしたいと思いました。ぜひ読んでみてください！

報告者 馬場貴生
紹介した本「人のセックスを笑うな」



とにかく香ばしい本です。大人の恋です。モラルや常識に当てはめると逸脱していますが、この二人の恋は遊びではありません。本気です。しかし複雑なことにこの女性は旦那さんのことも嫌いじゃないんです。仕方ないんです。しかもここには恋の美しい部分だけではなく、逃げ道だったり汚い部分も描かれています。だからこそこれは大人の恋なんです。

あと、いちいち文章が素敵です。恋人と廊下ですれ違ってお互い知らんぷりする時の些細な描写だったり、「マグロの切り身のような夕日」という情景描写や「揚げたてのとんかつを噛むと動物性の脂がじんわり口に広がっていやらしい気持ちになってくる」という表現。帯に「嫉妬したくなるほどの才能と言わしめた」と書いてありますが本当にそうだと思います。

あと山崎ナオコーラという名前の由来が気になります。以上です。



報告者 松田定幸
紹介した本「座右のゲーテ」

ゲーテの名言を紹介した本です。その中で3つ抜き出して紹介したいと思います。

- ① 自分を限定する。これは自分が表現する手段（アウトプット）は限定し、情報を得るための間口（インプット）は幅広く確保しなさいということが書いてあります。
- ② 当たったら続ける。世間に受けた技法やパターンはどんどん続けましょう。ワンパターンと言われてもいいから、色んな手法に七変化で手を出すよりはひとつのことをやり続けた方が良くということが書いてあります。
- ③ 異質なものを飲み込む。これは①とも共通していますが、幅広く色んなジャンルを体験した方がよいということが書いてあります。漫画を描く人が漫画だけを読んでいては駄目で、いろんな文学作品やその他のジャンルのものを吸収していく重要性を私自身も感じているので、この章に共感しました。

以上が、私がお勧めする章になります。

とあるきっかけでとある男女が食事をするようになります。その時に女の人が男の人を見て、この人はキリンに似てると思います。それが後々キーワードになるんですが、とにかくふたりは時々食事に行く仲になります。

ある時、女の人が男の人にキリンに似てますねと言います。そしたら男の人がキリンってどんな漢字を書くか知ってますか？と聞きます。で男の人が女の人にキリンの漢字を教えるんですが、どうやって教えたか皆さん思いますか？

男の人は女の人の手ひらにキリンの漢字を書きます。こんなことをされたら、どきどきしますよね。

この本を読みながら私は自分の頭の中で、食事をしている二人の間に自分が座っているイメージで、透明人間になって二人の会話を聞いているつもりでこの本を読み進めました。

なので、この手のひらにキリンの字を書いたシーンで、私自身もああっ！となって、この男の人は女の人を好きなんじゃないかと思いきどきどきしました。話の展開としては一筋縄では行かない部分もありますが、その後も二人は「食事」という逢瀬を重ねていき、透明人間の私も最後までどきどきしてこの本を読みました。

あと、この機会に「喋々喃々」という言葉の意味を調べました。男女がこそこそ話で盛り上がるという意味の枕言葉と書いてありました。なので、内容にぴったりのタイトルなのです。

本当に素敵な食事のシーンが沢山出てきます。ぜひ皆さん一度読んでみて下さい！

報告者 間々えいよ
紹介した本「喋々喃々」



投票の結果は、間々えいよさんが優勝しました！！

ただ本の説明をするだけではなく、読んでいる時のわくわくする気持ちを上手に伝えていたことが、勝因だったように思います。

あと馬場さんのようにあまりにメジャーな本は、既に皆読んでいるので、点数が入りにくい…ということも分かりました。。

(イベント詳細)

開催日 2015年2月21日(土) 18:00~19:00

開催場所 天神 赤レンガ文化館

参加費 200円(会場代)

発表者 4名、参加者 7名でした。

※詳細は未定ですが、またビブリオ・バトルも企画します。自分で何かを書いたり
はしないけど読むのは好き…という方も参加できるイベントです。新規の方も大歓迎です。参加希望の方は一度ぜひメールを下さい☆



文書庫ノ大魔神

一路 真実

(イチロ マミ)

どうせ、私の仕事なんて無意味なんだ。右から左へ、入って来たものを誰かに渡していくだけの仕事だもの。

文佳あやかはそう思いながら、机の上に積み上がった書類の仕分けをしている。係別に仕分けされた書類の束を抱えると立ち上がり、担当に手渡ししながらすると通路をすべる。この膨大な書類は文佳をすり抜けて、処理できる人に渡っていく。文佳は自分のことを透明なトンネルみたいだ、と思った。

「あやちゃん」
江上さんが立ち上がり、冷たいピンヒールの音をたてて文佳を追ってくる。真っ青なタイトスカートに目を奪われた隙に、大量の書類を投げるように渡された。

「これ文書担当の仕事だから」
くるりと踵を返すと、膝を擦り合わせるような歩き方で素早く席に戻っていく。
「まただ。江上さんは何でもかんでも「文書担当だから」って一言で、自分の仕事まで私に押し付けてくる。」

突き返すこともできず、仕方なく受け取った文書を片手に、ようやく席に着くと向かい

の裕美さんがパソコン越しに声をかけてくる。

「ねえ、今度の月曜って社長のスケジュールあいてたわよね？」

文佳は、共有の棚に置いてあったスケジュールと書かれたファイルを取って来ると、挟まれた文書をめくる。

「午前中來客があつて、午後から会議ですね」とすると、裕美さんはあからさまに顔をしかめた。

「月曜のスケジュールおさえてって言ったでしょ。企画課から新商品の社長プレゼン終えないと、発売日に間に合わないって言われているんだからさあ」

「えっでも……」

文佳が口を挟もうとすると、斜めに視線をあげ、間髪いれずに裕美さんは続ける。

「また言い訳？ 企画課からの文書受け取ったの、あなたでしょ？ こういう大事な案件は、その時点で予定おさえてくれないと困るんだけど」

「……はい」

「まあいいわ。私が企画課に断りの電話入れて別の日で調整するから。あやちゃんは、私

が言った日程どおりに、文書だけ作ってくれればいいわ」

「はい」

文佳がおとなしく返事をする、裕美さんは嫌みに微笑む。

「また、貸しね」

文佳は心の中で思った。

（社長のスケジュール調整は裕美さんの仕事なのに。どうして文書担当が、そこまでしなきゃいけないのよ。）

文佳は異例の人事で、この秘書課に配属となった。昨年まで、百貨店の一階フロアで客相手に化粧をしながら商品の宣伝をする、美容部員だったからだ。鏡の前に座った女性客の顔に、文佳の手で魔法をかけていく。握ったブラシはまるで光の飛び出す魔法のステッキ。今までの顔色が明るく華やかになると、鏡を覗きこむ客の表情が別人のように輝いていく。

「こんなお婆ちゃんの顔も、まるでヘップバーンみたいにしてくれるなんて」

そう言っ、手を叩いて喜んだ老女。どの美容部員も、その老女が店に訪れる度に、化

粧なんかしても意味がないと敬遠した。そんな中、文佳だけがいつも優しく声をかけ、丁寧にスキンケアから教えていった。この老女こそ、文佳の会社の会長夫人だったのだ。そして、思ってもみないうちに、文佳は本社の秘書課に送り込まれたのだった。

赴任してすぐの頃、仕事を教えてくれた裕美さんは言った。

「あやちゃんは本社も初めてで大変だろうけど、文書担当として頑張ってね」

それが今の仕事。簡単に言えば、社内外のあらゆるところから送られてくる文書類を選別し、課員の担当業務がうまく回るように補助する業務。

つまりは、雑用全て。

——ああ、もう嫌になる。文佳は時計を見た。十時十五分。よし、トイレに行く時間だ。個室に入って、しばらく頭を冷やす。この時間がないと、あんな部屋でやってられない。すると、トイレに入って来た女性社員が、きやあきやあと笑い合う声が響いてきた。

「ほんと嫌になるよね」

聞きなれた少しハスキーな声は、裕美さん

のものだ。文佳は個室の中でそっと耳をすませる。

「ああ、ブンのこと？」

「文書担当のくせに、内容確認を怠ってるのよ」

「裕美がいつも尻拭いしてるわよね」

「まあね、できない後輩がいると、本当に困るわ」

文佳はぎりつと奥歯を噛み締める。

「裕美が言ったから、私もやり方変えたわよ。ブンに少しずつ仕事を振っていく作戦」

この声は江上さんだ、と文佳は思う。

「どうせ文書担当なんて、仕事してないようなんですよ。それで秘書課にいられると思うなって感じ」

また別のキンキンした声が相槌を打つ。この声は芹沢さんだ。

「ブンなんか、早く仕事失敗して左遷されればいいのにね」

裕美が大きな溜息をついて、呟くように言う。

「会長の奥さんに取り入るなんて、本当サイテーな女」

妙に耳障りなヒールの音をさせながら、裕

美さんたちがトイレから出て行く。文佳は、ハンカチを握りしめたまま、ドアとの隙間にうずくまった。

（私だって、文書の仕事なんてやりたくない。お客様をきれいにしていた時に戻りたいのに……。）

頭を抱えてうつむくと、胸に溜まった悪い空気を吐き出すように、ゆっくりと溜息をつく。すると、床に落ちた影が突然ゆらりと動いた。

はっと天井を見上げると、ドアの上からゆっくり出てきたのは、人の顔だった。普段見慣れない光景が眼前に広がると、途端に思考が停止してしまう。文佳は茫然と目を開いたまま、その顔を見つめた。その人は天井との隙間をするっと抜けると、狭い個室の中に入り込んできた。

「サツキのアレ、アンタのことダロウ？」

腰まであるソバージュの髪に、三角の帽子をかぶり、帽子と同じ薄水色の綿の服を身につけている。手にはモップ。掃除のおばさんだと認識するより先に、また女が奇妙な日本語で話しかける。

「悔しくナイのカイ？ プンなんて呼ばれ

て。アンタはアヤカ、ダロウ？」

「どうして、私の名前を……」

「アンタに良いこと、教えてアゲル」

そう言うと、突然個室のドアを開け、文佳の腕を引っ張って外へ引き出した。

「アンタが扱った文書が、最後までここにたどり着くのか知っているカイ？」

文佳が黙ると、掃除のおばさんはくくつと笑って言った。

「地下三階の文書庫ダヨ」

「地下は二階までしかないはずよ」

「アンタは東棟しか出入りしてないから知らないのサ。西棟には地下三階に通じるトビラが隠されテル。一定のヒトにしかならないトピラなのサ。それを開けると、地下に降りる階段が出てくるンダヨ」

そう言うと、文佳の腕を引っばった。

「ホラ、イクヨ」

「やめてください。まだ仕事ですから」

腕を抜こうとすると、昼休みを告げるチャイムが社内に鳴り響いた。

「サア、仕事は終わり」

掃除のおばさんは、文佳をぐいぐいと引っ張り、階段まで来ると突然、文佳の背中を思

い切り突き飛ばした。

「きゃあっ」

思わず、文佳の足が勝手に階段を駆け下り始める。掃除のおばさんも後ろから追いかけってくる。

「アトはアンタが道を切り開クンダネ」

くるくると文佳の足は階段を駆け下り、スカートがふわりと広がり、入ってくる風にも速いスピードに今が何階なのかも分からない。視界に入る掃除のおばさんは、階段の手すりの上に敷いたモップに腰かけ、まるで魔女のようにすべり降りている。

突如、眼前に出てきた薄汚れたドアに思い切りぶつかると、そのまま二人は吸い込まれるように部屋に転がりこんだ。

辺りを見回すと、橙の電灯が壁の柱に沿って灯り、床に等間隔に焦げたような陰を落としている。一緒に来たはずのモップに乗っていた魔女は、いつの間にか消えていた。

「誰かいますか」

何だか冷えたような通路を文佳の声がこだましていく。反応する人の気配は感じられ

ない。文佳は立ち上がり、手を壁に添えて暗がり歩き始めた。

しばらくすると、ドアの隙間からぼんやりとこぼれる灯りが目に入り、文佳は勢いよくノブを引いた。

「失礼します」

すると、部屋の中央部分の机に座っていた一人の大柄な女がゆっくりと文佳の方を振り返った。ひどくむくんでぼんぼんに腫れた顔に、小さく丸い眼鏡が申し訳なさそうに乗っている。ちりちりに痛んだ髪は後ろに輪ゴムで束ねられ、まとまらない毛が四方八方に飛び出ている。ゆったりした服の上からでも、不必要についた贅肉の存在が分かる。文佳の姿を確認すると、その女はまた机へ向かった。

「あの……」

文佳が言い終わらないうちに、大女は背中越しにぶつきらぼうに答えた。

「知ってるよ。秘書課のブンだろ」

文佳ですら、今日初めてその名で呼ばれていることを知ったのに、この大女はなぜそれを知っているのだろう。

文佳が何も言っていないのに、女は答えた。「あたしは大魔神だよ。何でも知ってるさ。」

「あんだ、どうせ文書の仕事をなめてるんだろ」

「え？」

「こっちに來な」

大魔神の背中におそるおそる近づく。机の上には膨大に積み上がった書類の山。大魔神はその中からスツと紙を引き抜くと、文佳に手渡した。

文書には、会長との夕食会や財界人の接待、娘の誕生日会など私的な用事まで、社長の予定が事細かに書かれていた。

「これって……」

「分からないのかい。社長の手帳の写しだよ」秘書課でも持っていない情報があるなんて、と文佳は目を丸くすると、大魔神は鼻で笑った。

「みんな文書なんて簡単な仕事って思っているかもしれないけど、実は最も重要な仕事なんだ。文書を受け取ってことはあんだが誰よりも先に一番早く情報を得られるってこと。そしてそれを誰にどう伝えるかも、あんだにかかっているってことなんだよ」

大魔神は突然立ち上がった。女性の平均身長以上ある長身の文佳でさえも、大魔神の肩にすら届かない。そんな文佳を少しも見ず、

大魔神はみしみしと床をききまかせて歩くと、奥の電気のスイッチを入れた。一瞬にして暗かった部屋に橙の電灯が灯る。すると、部屋一面がファイルの詰まった棚で埋め尽くされ、まるで図書館のようだった。

「これって……」

文佳が息を飲むと、大魔神は言った。

「社内の膨大な情報がここに眠ってるのさ」文佳がファイルに手を触れようとすると、大魔神は電灯のスイッチを切った。

「さあ、もうすぐ昼休みもおしまいだ。その文書を持ったらとっとと仕事に戻るんだね」そう言っ、また床をききまかせて歩くと、部屋の中央の席に腰を下ろした。すると、午後の始業を知らせるチャイムが鳴り始める。慌てた文佳は、部屋を出る前に大魔神の背中に向かって叫んだ。

「あっ……ありがとうございます。あの、またここに來てもいいですか？」

大魔神は少しだけ振り向くと、「好きにしろ」と低い声で答えた。

職場に戻ると、あんな地下の部屋があったなんて夢だったのではないかと思える。秘書

課はきらびやかな世界だ。集まった女性たちはみな一様にきれいで、化粧品会社の名を貶めないよう、肌の手入れやスタイルにも気をつかわなければいけない。しかし、あの大魔神は化粧もしていなければ見た目も醜く、本当にこの社員なのかも疑わしいほどだ。

文佳は握りしめていた手を開くと、くしゃくしゃに丸まった文書があった。間違いない。そこには社長の直筆でびっしり書き込まれた手帳の写しがある。夢じゃないんだ。

向かいの裕美さんが受話器を叩くように置くと、苛立った声で話しかけてきた。

「企画課から言われた日って全然スケジュールあいてないわ。どうすんのよ！」

パソコン越しに投げるようにファイルを渡される。付箋の貼られた箇所は、既にスケジュールが入っている。

文佳はこっそり大魔神からもらった文書を見た。その写しには書き直された形跡がある。

「裕美さん、火曜の夜の予定が変更になってるかもしれないんで、社長に聞いてもらえますか？」

「何言ってるの。火曜の夜は会食でしょ」

「おそらくその予定が水曜に変更になっていると思います」

裕美さんは訝しげな顔をしたが、すぐに社長の携帯電話に連絡を入れたようだった。

「本当に助かりました」

次の日の昼休み、文佳はまた大魔神の部屋にいた。

「結局、裕美さんが文書を作成して、『私が作ったわ。ありがとう』って言って来たんです」

文佳のハスキーな口真似を聞いて、大魔神はフンと笑った。

「あら、新しいお客さんじゃない」

声の方を向くと、文佳はその姿を見て、驚きを隠せなかった。その女の体には毛が全くなかったからだ。髪の毛や眉毛はもちろん、腕やうなじも産毛すら見当たらない。つるんとした白い肌の女がぬっと近寄って来た。

「タワケ、また油売りにきたのかい」

大魔神がそう言うのと、女は甲高い声で笑った。

「いいでしょ。あんたもこれやらない？」

女は文佳にふせんの束を差し出した。

「えっ？」

「ふせんジェンガだよ」

女はカラフルなふせんを積み上げると、どんどん引き抜いて行く。

「ほら、あんたの番」

文佳が引き抜くと、途端にふせんが床に散らばった。

「センスがないねえ」

無毛の女はそう言って腕組みをして文佳を見つめる。

「ああ、思い出した。あんたの部署に江上って女がいるだろ」

文佳が肯くと、無毛の女は囁くように言った。

「江上っていつも長袖着てるだろ」

「ああ、そういえば」

「あの女、前は系列会社のエステティシャンだったんだ」

すると、離れたところにいた大魔神が低い声を出した。

「あんたと同じじゃないか」

「そう」

無毛の女が振り返る。大魔神は文佳に説明した。

「この女は、エステティシャンになってまず自分の脇を脱毛したんだ。そうしたら、脱毛欲が止まらなくなっただけね。自分の毛を全身なくしちゃったんだよ」

「まあ、自分の毛がなくなったから、今はお客の脱毛をしまくってるんだけどね」

ひきつるような高い声で笑うと、無毛の女は続ける。

「江上は、研修のときに脱毛に失敗してね。使った薬が悪かったみたいだよ。肌が荒れていつも長袖を着なくちゃいけなくなっただけに、体質が変わったせいで化粧品アレルギーになった。もう二度と人の肌を扱う部署に行けなくなっただけさ」

「全然気付かなかった」

文佳が驚くと、無毛の女が言う。

「そりゃ他の人に気づかれぬように必死さ。こんな会社いたらね。だから、毎日、肌の手入れに何時間もかけてるんだって」

無毛の女は大声で笑う。文佳が黙ると、大魔神が立ち上がり、床をきしませてファイルの棚に近づくと一枚の文書を取り出した。

「タワケが。だからって、他の人の仕事まであんたがかぶることないんだよ」

大魔神は、文書を文佳の顔の前にかざした。その文書は、江上さんが文書担当だからと渡してきて、文佳が代わりに処理したものだ。た。

「あんたは気持ちで仕事をしすぎなんだ。相手が感情のない生き物なら、あんたがどれだけ気持ちを入れて接したってムダってもんさ」

文佳は何も言えなかった。大魔神は気づいていたのだ。無毛の女の話聞けば、文佳が同情して余計に江上さんの仕事を引き受けてしまうことを。だから、文佳にくぎを刺したのだ。それが分かったからこそ、文佳はただ俯くしかなかった。

ちりちりの髪をかきむしると、大魔神は静かにファイルの棚にしまった。

来る日も来る日も、文佳は大魔神の部屋に入り浸っていた。まるで駆け込み寺のように、大魔神の元へ行き、教えを請う。決まって大魔神は言う。

「タワケが」

口は悪いが、最後には必ず役立つ文書を持たせてくれるのだ。

ある時、文佳が大魔神の部屋を出ると、通路をゆっくり歩いてくる大男がいた。目はうつろで、手には何冊もの空のファイルを持ち、通路の壁際をゆっくりと大魔神の部屋の方へ歩いてくる。

（この人も文書担当なんだわ……。）

文佳は横を通り過ぎると、出口へと急いだ。社外から来る文書は、全て一か所の部屋に集められる。それを取りに行くのも文書担当の仕事だ。各課の文書担当が決まった時間に集まって来る。

文佳は秘書課と書かれたボックスから郵便を取り出した。廊下を歩いていると、一緒に歩いてくる男女とすれ違った。二人の楽しそうな様子に、別々の課の文書担当の二人だと察した。

社内恋愛は禁止されているが、文書担当の二人は同じ時間に同じ場所に向かう業務がある。一日に二回届く文書を取りに行くときに待ち合わせして、二人で会える重要な時間を過ごしているのだ。

「そういう二人ってどう思いますか？」

文佳が大魔神に訊ねると、いつものように

鼻で笑われた。座って調べ物をしていた無毛の女が足を組んだ。

「いいじゃないの。織姫と彦星って感じで」
大魔神が低い声で答える。

「タワケ。文書担当の恋なんて、そんなロマンティックなもんじゃないわ」

机に向かって作業をしながら、大魔神はため息をついた。その様子を見て、無毛の女が言った。

「そうね、あんたも文佳と同じ。文書担当になんかなりたくてなったわけじゃなかったわね」

大魔神は文佳に向かって口を開く。

「ただ、気付いただけさ。この世は情報戦。それを制するのは文書の力だってこと。どんなにデータ化されたって、人はそれをきちんとは見ない。紙の情報に落とされて初めて、深い議論ができる。紙として手に取ったものの中で、どれだけのことが表現できるか。それを操るのが文書担当の仕事なのさ」

文佳は大魔神の言っていることがよく分からなかった。でも、いつか分かればいいと言っているように、大魔神はフンと鼻で笑うとまた机にかじりついた。

文佳は次第に秘書課に馴染んでいき、裕美さんや他の先輩たちからの嫌がらせももうまっくかわせるようになっていった。

大魔神の部屋で、あのうつろに歩いていた大男に出くわしたことがある。文佳が部屋に入ると、顔を近づけて何やら話していた二人が体を離す。巨人二人が小さな文書を見ていた姿が何だかおかしかったが、大魔神は顔を隠すようにこちらを振り向きもしなかった。文佳がいつものように仕事の愚痴を話すと、大男は口を挟んだ。

「ぼっ……僕は、にがっ……苦手な上司がいると、あだ……あだ名で呼ぶように……しているよ」

言葉が喉に詰まるかのように喋る。大魔神は大男の代わりに言葉を繋いだ。

「心の中だけでね。ニックネームを付ければ少しは気持ち落ち着くものさ」

秘書課に戻り、文佳が文書を仕分けていると、耳に響く声で女が声をかけてきた。

「何でこの文書が私の机にあるのかなあ？」
（仕事嫌いのせりちゃんはまだ嫌み言ってるわ。）

文佳はそうニックネームで呼びながら、中身にざつと目を通すと、

「こちらに書いている部分が芹沢さんの担当ですのぞ」

（バイバイ、せりちゃん。）

わざとらしく笑みを見せて文書を返すと、心の中で手を振る。芹沢は不服そうな顔をしながらも何も言い返せず、仕方なく席へ戻っていく。

今までは自分が悪いのだと思っていた。誰かに何か言われると、いつも自分が間違っているのだと。しかし、そう思うことがより文佳を追い詰めていたのだとようやく気付いた。

文佳が強くなっていくと同時に、少しずつ大魔神の部屋から足が遠のいていた。大魔神のことを忘れたわけではない。毎日のように教えを思い出すけれど、文佳もそれなりに仕事ができるようになっていたからであった。

ある日、床に落ちていたふせんを拾い上げたとき、文佳はふとふせんジェンガを思い出した。

「時々、床に貼られたふせんを見たことがあ

るでしょ。あれは誰かがふせんジェンガをしたなごり」

無毛の女がそう言って甲高い声で笑ったことも。

すると何だか、無性に大魔神の部屋が恋しくなった。薄暗く、冷たい空気のあの部屋に閉じ込められた大女のことを思い出した。

文佳が身ぶるいして、「この部屋、何だか寒いです」と言うと、大魔神が答えた。

「タワケ。文書にとって大事なものが何か知らないのか。日光に当てたら紙が変色するだろう。だからこんな薄暗い場所じゃなきゃだめなのさ。そして、湿度管理が重要なんだ。暑いと湿度が発生して、紙質が変わるんだよ。文書は生き物。あんた、文書担当のくせにそんなことも知らないのか」

文佳はそんな大魔神とのやり取りを思い出しながら、いつものように、届いた文書を仕分けていると、一枚の通知を見つけた。

「二階に文書庫が完成？」

それは二階に新しい文書庫ができたという知らせだった。文佳は慌てて、二階へと走った。

新しい文書庫の入口は、社員証をかざすだけでそれをコンピュータが自動的に認証して扉が開く。中央に何台ものパソコンとプリンタが置かれている。もう無数のファイルはなくなっている。全ての文書が電子化されていた。見たい情報は検索するだけで、すぐどのデータも取り出せる。

大魔神の部屋ではタブーだった日光も、窓から差し込んでくる。真新しい壁は白で、とり込まれた光が明るく眩しいくらいだ。空調も自動で管理されている。

しかし、なぜだろう。部屋の白さや真新しい匂い、快適な温度でさえも、不思議と全てが無機質な印象を与える。キーボードを叩く音だけが響くその部屋は、人間はもういらないのだと言っているようだ。

文書庫を出ると、文佳は地下三階へ行こうとした。しかし、もうその扉はどこにも見当たらなかった。どんなに壁を叩いても扉は開かない。

「あれは誰だったんだろう。文書の大切さを教えてくれたあの人は……？」

翌朝、出勤した文佳が一階の入り口を通る

時、しゃがんでバケツにモップを突っ込み、音を立てて洗っている掃除の人がいた。帽子の隙間からちりちりの髪の毛がはみ出し、輪ゴムで後ろ一つに束ねられている。薄い水色の綿の服からは余分な贅肉が見え、しゃがんでいても大柄なことがわかる。

「あれは大魔神？ まさかね……」

立ち上がり、モップをかけ始める太ったうしろ姿に、どこか寂しさを感じ、文佳は声をかけないまま社内へと入った。





編

集

後

記

VOL. 11



天沼 太郎

先日、とうとうAKSのヘッドフォンを購入。これで夜中も音楽三昧です。目指せ音楽廃人！ ご意見ご感想などありましたら、doguramgura7@gmail.comまで。



馬場 貴生

先日シャボン玉をしまして、すごく楽しかったです。シャボン玉が子供の遊びだと思っている大人はまだまだ世界が狭いですよ。僕が笑ってやります。



松田 定幸

イラストに表示されている「Draco」とは、竜座の学名です。詩に出てくるトランプのスートの暗喩、と実際のスートの意味や由来とは、関連はあまりありません。



間々えいよ

締切当日に原稿を書くということをしてしまいました。締切日が日曜日でよかったです。



竹中 優子

マチコ・ダメージヘアさんが初めてお酒を飲んだ瞬間のことは私も忘れていません。思い出っって本当に良いですね。



To's job

心機一転。思いのまま自由につくれるはずが、なかなか思いが出てきません。焦点を定めることからやり直します。



一路 真実

ベットの文鳥が鏡に向かって求愛行動をしていました。何か複雑な気持ち…



詠人 不知

ドロンします。



マチコ・ダメージヘア

今回と同タイトルで「Life is mine」さんというサイトで文章を書いています。 <http://lifeismine.me> ほかのライターさんも大変バライティに富んでいますのでぜひ遊びにきてください。

★星屑書房は好き勝手に表現活動をしていく文化系サークルです。現在は、フリーペーパーの制作・配布が中心ですが、今後は幅広く、文化系活動をしていく予定です。本を読むことが好き。本を自分で作ってみたい。映画を観ることが好き。映画を撮りたい。文化系趣味を持つ人々をつなぎます。社会人が中心ですが、誰でも入会OK！「こんな活動してみたい」という提案募集中心☆
少しでも興味を持たれた方はこちらにご連絡ください
→ starustbookselive.jp お待ちしています！

